

自治体の家族政策による出生行動の機会格差の是正

金井 雅之

(専修大学)

mkanai@senshu-u.jp

1 目的

1990年代以降のグローバル化や若年非正規雇用・無業の増加などのひとつの帰結として、結婚や出産といった家族形成にかかわる機会格差に注目が集まっている(佐藤ほか2010など)。

このうち出生行動に所得や雇用形態などの経済的要因(福田2011など)や、家族・親族をはじめとするサポート資源(星2007など)が影響することは、マイクロデータの計量分析によって従来から指摘されている。一方、国や自治体による家族政策は本来、社会全体での少子化の進行を食い止めるというマクロな目標を目指すものであるが、弱者に手厚いという社会政策の一般的傾向に由来する副次的な効果として、こうした個人や世帯の特性に基づく機会格差を是正することが、理論的には想定しうる。

そこで本報告では、異なる家族政策をもつ自治体に住む個人を対象とした無作為抽出調査データを分析することによって、出生行動に及ぼす家族政策と個人や世帯の個別特性との相互作用を検討する。

2 方法

データは2011年夏に郵送法で実施した「結婚と子育て支援にかんする東京都民調査」(金井2012)を用いる。東京都のすべての区市(49自治体)から、満25歳から54歳までの男女個人をそれぞれ50人ずつ計画標本として抽出し、最終的に1,230人から回答を得た(有効回収率51.0%)。

現時点での子ども数を0人、1人、2人以上の3カテゴリーに再編して従属変数とする多項ロジット分析をおこなう。独立変数は、居住する自治体の「家族政策」(実施している取組みの数)、「世帯所得」(階級中間値)、携帯電話のアドレス帳の登録人数(対数変換)で測定した「サポート資源」であり、統制変数として「年齢」と「教育年数」を加えた。各変数の記述統計と2変数相関は表1,2の通り。

表1 使用する変数の記述統計

	最小	最大	平均	標準偏差
家族政策	1	7	4.56	1.37
世帯所得	50	1,500	698.7	372.3
サポート資源	0	7.02	4.39	0.96
年齢	24	54	39.37	8.24
教育年数	15	24	20.15	2.08
子ども数	0人 46.5%, 1人 17.8%, 2人以上 35.7%			

(分析に用いるすべての変数で欠損のない1,059ケースに限定。以下同様。)

表2 2変数間の単純相関

	子ども数	家族政策	世帯所得	サポート資源	年齢
家族政策	-.108 **				
世帯所得	.180 **	.097 **			
サポート資源	.037	.054	.165 **		
年齢	.369 **	-.013	.151 **	-.102 **	
学歴	-.099 **	.060	.352 **	.196 **	-.076 *

3 結果

(1) 交互作用を仮定しないモデル

まず、変数間の交互作用を仮定しないモデルの結果は表3のようであった。

影響の向きとしては、家族政策は子ども数を減らす方向に、世帯所得とサポート資源は子ども数を増やす方向に機能している。前者は、東京都という少子化が極端に進んだ都市部では、家族政策は少子化を食い止めるというマクロな目標を、少なくとも現時点では実現できていないことを示している。

一方係数の有意性を見ると、最初の子どもの設けるときは家族政策と世帯所得が、2人目以上の子どもを設けるときはサポート資源が、それぞれ効果をもっている。これらの結果は、基本的に先行研究の知見と整合的である（岩間 2004, 福田 2011 など）。

表3 交互作用のないモデル

	0人			2人以上		
	係数	標準誤差	オッズ比	係数	標準誤差	オッズ比
家族政策	0.203	0.063	1.225 **	-0.023	0.065	0.978
世帯所得	-0.001	0.000	0.999 ***	0.000	0.000	1.000
サポート資源	-0.021	0.089	0.980	0.197	0.094	1.218 *
年齢	-0.047	0.010	0.954 ***	0.061	0.010	0.954 ***
学歴	0.106	0.029	1.111 ***	-0.085	0.031	0.919 **
(定数)	0.396	0.002		-1.171	0.002	

従属変数は子ども数（基準カテゴリーは1人）。

-2LL = 1965, モデル $\chi^2 = 220$ ***, N = 1059. * < .05, ** < .01, *** < .001.

(2) 家族政策と個別特性との交互作用を投入したモデル

つぎに、家族政策と世帯所得やサポート資源との関係をより詳細に見るために、家族政策とそれらの交互作用を仮定したモデルを検討した。

まず子ども数1人と0人との比較、つまり（結婚して）最初の子どもの設けるかどうかの判断をおこなう際には、家族政策とサポート資源との間に有意な相互補完的な交互作用が検出された（結果表は当日配付資料参照）。

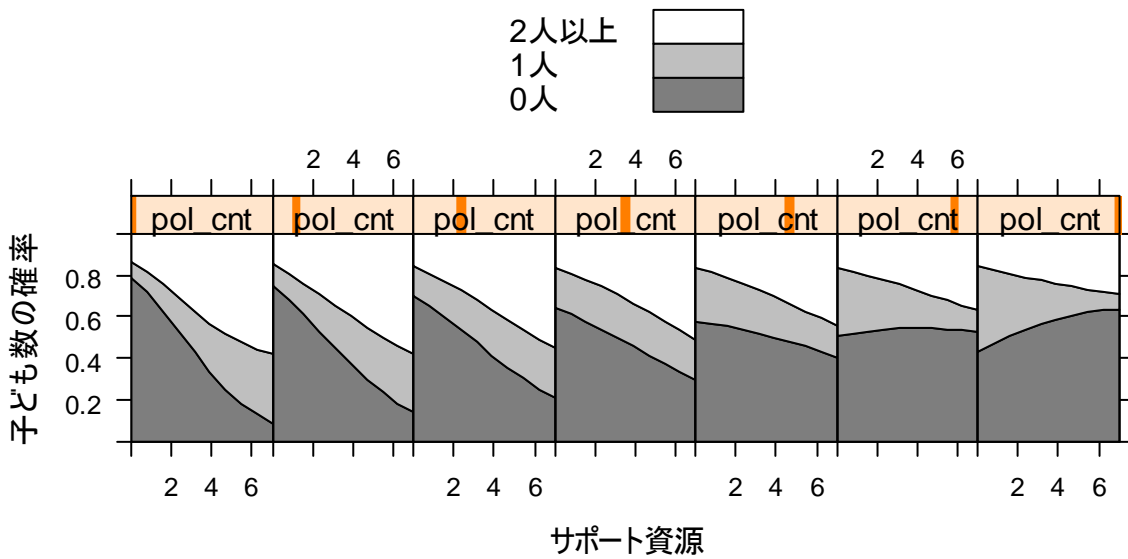


図1 家族政策とサポート資源との交互作用

他の変数の値をそれぞれの平均に固定したときの、これら2つの変数と子ども数との関係を、図1に図示する。横方向に並んだ7枚のパネルは、右に行くほど家族政策が充実していることを表している。家族政策があまり充実していない左の方のパネルではサポート資源に恵まれた人ほど子どもを持つ確率が上がっているのに対し、家族政策が充実している右の方のパネルではサポート資源に恵まれていない人ほど子どもを持つ確率が高い。これは、サポート資源に恵まれた人ほど子どもを持ちやすいという個人特性に由来する機会格差を、自治体の家族政策が緩和していることを意味する。

つぎに、子ども数1人と2人以上との比較においては、家族政策と世帯所得との間に有意な相互補完的な交互作用が検出された（結果表は当日配付資料参照）。

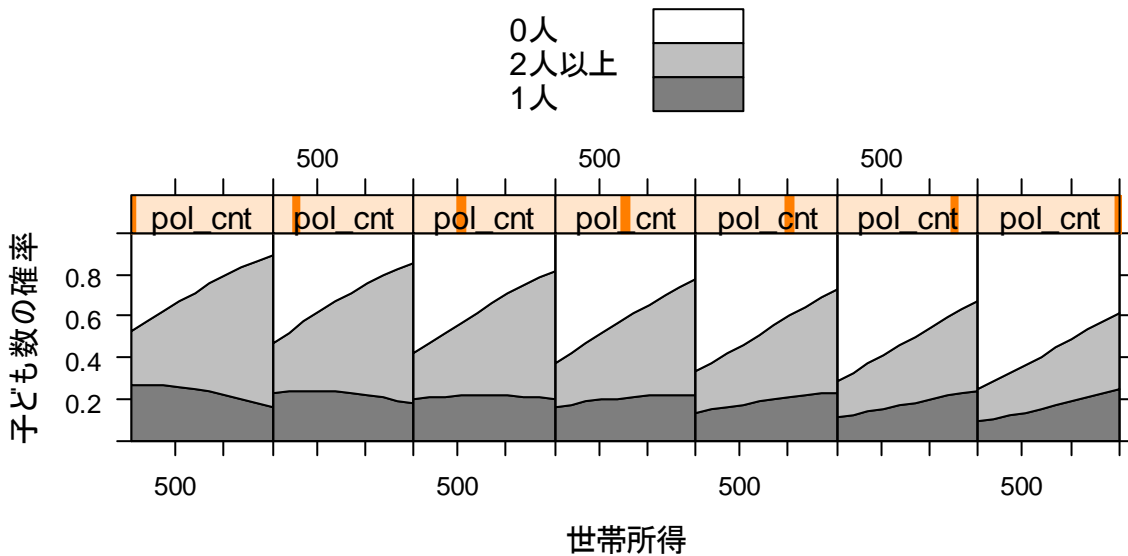


図2 家族政策と世帯所得との交互作用

これらの変数の効果を図示した図2を見ると、家族政策があまり充実していない左の方のパネルでは世帯所得が高くなるにつれて1人ではなく2人以上の子どもを設ける確率が大きく上昇するのに対し、家族政策が充実している右の方のパネルでは世帯所得が高くなっても1人ではなく2人以上の子どもを設ける確率はそれほど上がらない。これは、所得すなわち経済的資源に恵まれた人ほど子どもを持ちやすいという個人特性に由来する機会格差を、自治体の家族政策が緩和していることを意味する。

4 考察

自治体の家族政策が所得やサポート資源といった個人特性の差に由来する出生行動の機会格差を緩和する効果持つか、という冒頭の問いについて、ひとまず肯定的な結果が得られた。これは、社会政策を充実させることによってある種の機会格差が調整される場合があることを例証するものであり、長野県内の複数の市町村に住む住民調査による先行研究（金井2011）の知見（家族政策が充実している自治体ではサポート資源の多寡が子ども数にあまり影響しない）とも一致している。

しかしながら、東京都の区市部という全国でも最も少子化の進んだ都市部を対象にした今回の分析で注意すべきなのは、家族政策が基本的には出生数を下げる方向に働いている（ように見える）ことである。これに対するひとつの解釈は因果の順序が逆であるとするもので、あまりにも少子化が進んだ区市が出生数を増やすために必死で家族政策を実施しているものの、その成果が（まだ）十分上がっていないと考えることである。この仮説のマクロデータによる検証には理論的・技術的な困難が予想されるが、それ以上に重要なのは、仮に「後追い」だとしても、都市部においてこれらの家族政策が中長期的には出生率を向上させる効果を本当にもちうるのか、という点であろう。諸個人の価値が高度に多様化した社会における機会格差という概念の意味や政策の位置づけを再検討する必要があるかもしれない。

文献

- 福田宣孝, 2011, 「子育ての経済的負担感と子ども数」阿藤誠・西岡八郎・津谷典子・福田宣孝編『少子化時代の家族変容——パートナーシップと出生行動』東京大学出版会, 161-82.
- 星敦士, 2007, 「サポートネットワークが出生行動と意識に与える影響」『人口問題研究』63(4): 14-27.
- 岩間暁子, 2004, 「既婚男女の出生意欲にみられるジェンダー構造」目黒依子・西岡八郎編『少子化のジェンダー分析』勁草書房, 124-49.
- 金井雅之, 2011, 「子育て支援における自治体の施策と社会関係資本の相互補完関係——長野県内の市町村間比較調査による予備分析」第52回数理社会学会大会報告（ポスターセッション）.
- , 2012, 「結婚と子育て支援にかんする東京都民調査——標本設計と回収状況」『専修人間科学論集』2(2): 185-90.
- , 2013, 「自治体の家族政策による出生行動の機会格差の是正」『専修人間科学論集』3(2):印刷中.
- 佐藤博樹・永井暁子・三輪哲編, 2010, 『結婚の壁——非婚・未婚の構造』勁草書房.

謝辞

本報告は、二十一世紀文化学術財団の「平成22年度二十一世紀文化学術財団学術奨励金」（研究代表者：金井雅之）、科研費基盤研究B「地域間格差と個人間格差の調査研究：ソーシャルキャピタル論的アプローチ」（研究代表者：辻竜平）、科研費基盤研究B「少子化社会における家族形成格差の調査研究：ソーシャルキャピタル論的アプローチ」（研究代表者：小林盾）の助成を受けており、その研究成果の一部です。